

※本文に記載のある施設の位置は裏面に示しています。

和歌山市立三田小学校で出前授業を実施！！

当事業所では、和歌山市三田地区周辺において、**名草排水路**の改修工事を実施しています。

そこで、令和7年10月21日(火)に当事業所は、和歌山市立三田小学校の5年生61人を対象に、和歌山平野農地防災事業と農業・環境を学習の題材として出前授業を行いました。出前授業は、**校内学習**と**校外学習**の2部構成とし、学校で学習している農業を含む地域の産業や環境、食料自給率について身近な問題として捉えて学ぶことを目標としています。



校内学習

最初に、和歌山県拠点から日本の食料自給率の現状や農業を取り巻く状況、環境問題への取組などの説明を行いました。

当事業所からは、小学校周辺の浸水被害対策のためにどのような施設があるのか説明するとともに、校外学習で見学を行う**名草排水機場**及び**名草排水路**における当事業での改修内容、事業実施により地域に与える効果について説明しました。小学校周辺の地域の特徴や排水機場の排水能力についてクイズを出題すると、小学生が元気よく手を上げて回答してくれました。



校外学習

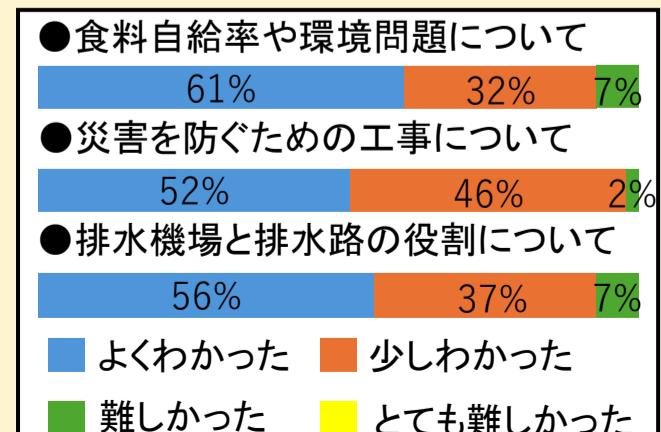
校外学習は、校内学習で説明した**名草排水機場**及び**名草排水路**を見学し、各施設の役割や改修工事の内容について説明を行いました。現地で実物を見ながら説明を受けることにより、校内学習で説明した内容について理解が深まったと考えています。

施設を見学した小学生から「工事中、水路に生息している魚はどうしていますか。」や「外から排水機場のポンプの音は聞こえますか。」、「魚は排水機場の中には入らないのですか。」などの質問が相次ぎ、小学校周辺で実施している工事に興味を持った様子が伺えました。



出前授業後にアンケートを実施

出前授業後に実施したアンケートでは、9割以上の小学生が「食料自給率や環境問題」、「災害を防ぐための工事」、「**名草排水機場**と**名草排水路**の役割」について理解できたと回答しました。また、「食料自給率を上げるために国産の食べ物を食べたい。」、「排水路の重要性が分かった。」、「排水機場があることで、小学校周辺が浸水するのを防ぐことが分かった。」などの感想が寄せられ、学校の授業で学んだ地域の産業や食料自給率の話と小学校の近傍で行われている工事を結び付けて理解してもらう良い機会になったと感じています。



事後アンケートの集計結果

国営土地改良事業 和歌山平野地区 事業実施状況

